６－０２

様式３

主題	片付けから学んだ「当たり前」の大切さ
副題	入居者のＱＯＬに繋がるマイレボリューション

５Ｓの活用		研究期間	６ヶ月

事業所	社会福祉法人アゼリヤ会　特別養護老人ホーム　みやま大樹の苑
発表者：北村　剛（きたむら　ごう）	アドバイザー：　田中　啓太
共同研究者：小川　正和　横井　俊明　古川　彩　山口　真平	

電　話	042-651-0161	E-mail	
ＦＡＸ	042-651-0136	ＵＲＬ	http://www.azeriya.or.jp/taijyu

今回発表の事業所やサービスの紹介	八王子市美山町という自然豊かな場所にあります。昭和６３年４月開設された１１３床２フロアの特別養護老人ホームです。敷地内には同法人アゼリヤ会の養護老人ホーム、救護施設、デイホームが併設されています。法人理念である、弱い立場の側に立った援助を、入居者一人ひとりに合わせた、日課にとらわれないケアを目指して、多職種協働で日々取り組んでおります。

《１．研究前の状況と課題》

職員の拠点となる寮務室が雑然としており、物も乱雑に置かれていた。「使わない物がそのまま置いてある」「備品の補充が上手くできていない」という状況が恒常的にみられていた。その為必要な物を探すのにも時間が掛かり、物がバラバラに置かれている為、動線にも問題がみられていた。職員間でも寮務室の状態について、問題提議される事があったが、根本的解決には至らず、意識ある職員が定期に寮務室内の片付けを行うが、すぐ元に戻ってしまう。職員間で環境整備に対して、意識と感覚に差がみられている事、職員全体で問題点の解決に取り組めていない事が課題であった。

《２．研究の目標と期待する成果・目的》

・研究の目的

備品の配置や管理方法を見直し業務の効率化を図り、業務が行い易い環境を作る。

基準をつくり、職員全員で環境を維持できる仕組みを作り、職員間の意識の差を無くす。

・期待する効果

片付け・環境整備を雑務でなく一つの業務と捉える事によって責任が生まれ、職員の意識が変わる。

職員一人一人が環境の維持・改善に努める事によって、小さな変化や問題点に気づく事ができ、より良い環境作りに繋げることが出来る。

《3．具体的な取り組みの内容》

5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）を活用し、まず寮務室内にある物品の見直しを行う。使用頻度が高い物と低い物に分け、全く使用していない物については処分、または倉庫に保管した。次に使用頻度が高い物は取り出し易い様レイアウトを変更し、また机の上に置くボールペンや消しゴムなどは使用する物だけに絞り、本数や個数まで管理した。机の上には文具や回覧物のみと決め、基準を作り、基本的にそれ以外の物は置かない様徹底した。

班長（指導職）を中心にその日の環境整備の担当者を決め、休憩終了後の３分間を片付けの時間とし、担当者を中心に職員に声をかけ実施した。また美化・環境整備の取り組みを促すポスターを作成し、期間を決め寮務室内に掲示した。最後に定期的に補充が必要な物品については補充のタイミングが一目で分かる様に印をつける等工夫をした。

以上の取り組みを１月～4 月にかけて、集中的に行った。

《4．取り組みの結果と考察》

取り組み前と比べると、一目で分かるほど寮務室内の環境が改善され、業務の効率化に繋がり、他部署からも取り組みに対して評価が得られた。

取り組みを行ってから６か月後に職員へアンケートを実施。取り組み前と比べると約75%の職員が寮務室内の美化・整理整頓への意識が変わったと答えている。取り組みを開始してから６か月経った現在も環境を維持できている。

この取り組みを行ったことによって、小さな変化も気になる様になり、以前よりも入居者の様子の変化や他の環境にも注意が向くようになったと声が上がった。この結果を受け、次に入居者の居室の環境整備に取り組んだ。寮務室の片付けと同様に基準を決め、それを維持するように努めた。それにより入居者の居室の環境が改善され、入居者の QOL の向上に繋がっている。現在、取り組みの最中ではあるが、入居者からは「以前と比べると、部屋が綺麗になった」などの声が聞かれている。

《5．まとめ、結論》

今回取り組んだ「寮務室内の片付け」が職員の意識を変え、それがきっかけとなり、結果、入居者の生活環境の改善に繋がりを見せている。職員の意識を統一する事は難しい事であり、時間の経過とともに、職員によっては意識の低下も見られている為、今後も取り組みの継続が必要。ただ今回の取り組みで職員の意識の変化一つで入居者の QOL の向上を図れる事が改めてわかった。

《8．提案と発信》

「当たり前」だと思われている事が、日々、様々な業務に追われる事によって、見落としがちだと思います。今回、そんな当たり前な「片付け」について、改めて向き合い、取り組む事が結果、入居者の生活環境の改善にまで繋がることがわりました。今回の取り組みによって、「当たり前の事を当たり前に行う事」が、支援する側、支援を受ける側にとって、とても重要な事だと改めて気づくことが出来きました。これからも「当たり前」を見落とさず、入居者の QOL の向上と職員のスキルアップを目指していきたいと思います。

【メモ欄】